

聖書: ヨシュア記 12 章

説教題: 打った王たちは次のとおり

日 時: 2010 年 7 月 4 日

ヨシュア記全体は大きく 1~12 章までと、13~24 章までの二つに分けることができます。前半はカナンの地での戦い、後半は得た土地の分配の記事です。その前半部最後の章である 12 章は、これまでの戦いの成果をまとめた章です。ある人は「わざわざここでこれまでのことをまとめる章を設けなくても良いのではないか。これまでのことはこれまでの章を読めば良いのだから。」と思うかもしれませんが、しかしもちろん意味があるから、このような一覧表がここに記されているわけです。そのことを見て行きたいと思います。

まず 1~6 節はヨルダン川の東側に関することです。1 節に「イスラエル人は、ヨルダン川の向こう側、日の上の方で」とあります。そこでイスラエルが打ち、占領した土地の王たちは次のとおり、と記されて、たくさん書かれているような気もしますが、実際に記されているのは 2 節のエモリ人の王シホンと、4 節のバシヤンの王オグの二人です。このシホンとはオグは、聖書に何回もその名が登場して来ますので、ご説明の必要はないと思いますが、大ざっぱに申し上げますと、シホンはヨルダン川東側の土地の内、南側を治めていた王です。具体的には 2 節にある通り、アルノン川からヤボク川までを支配していました。しかしヨルダン川の川沿いに限っては、3 節にありますように、北はキネレテ湖すなわちガリラヤ湖から南は死海までの地域も治めていたようです。イスラエルはかつて、このエモリ人の王シホンに「あなたの国を通らせてください。私たちは畑にもぶどう畑にも曲がって入ることをせず、井戸の水も飲みません。」と願い出ましたが、シホンはそれを許さず、イスラエルを迎え撃つために出て来ました。そして戦いとなり、イスラエルが勝利しました。一方のオグは、ヨルダン川東側の土地の内、北側を治めていた王です。4 節に彼は「レファイムの生き残りのひとりであった」とありますが、このレファイムとはアナク人のような巨人でした。当時レファイム人は絶滅しつつあり、オグだけがその生き残りでした。申命記 3 章 11 節に、彼の寝台は鉄の寝台で、長さは約 4 メートル、幅は 1.8 メートルであったと記されています。彼はアシュタロテとエデレイに住み、治めていた地域は 5 節に、北はヘルモン山から、南はシホンの国境までと記されています。このオグもイスラエルを迎え撃つために出て来て戦いとなり、イスラエルが勝利しました。このシホンとオグに関することは、ヨシュア記以前の話です。モーセの時代のことです。であるなら、ここに載せなくても、とも思いますが、そうではありません。なぜならこのヨルダン川東側にはルベン、ガド、マナセの半部族が住むからです。すなわち、彼らのことを忘れるな！というメッセージがここにあります。ヨルダン川を渡った西側の地だけが祝福の地であって、東側は関係ないかのように考えてはならない。イスラエルの一体性を保つためにも、やはりヨルダン川東側のことから書き始めるのがふさわしいのです。

続く 7~24 節はヨルダン川西側の戦いに関することです。7 節に「ヨシュアとイスラエル人とがヨルダン川のこちら側、西のほうで、云々」とあります。その地域は北はレバノンの谷にあるバアル・ガドから、南はセイルへ上って行くハラク山まで、です。そしてそれらの地方が 8 節で山地、低地、アラバ、傾斜地、荒野、およびネゲブと列挙され、そこにいた人々がヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人とあります。そしてヨシュアとイスラエルの打った王たちの名前が、9 節からリストされています。最後の 24 節にある通り、合計 31 人の王たちです。

さて、このようにイスラエルが打った王たちの一覧表がここにまとめられていることの目的は何でしょうか。それはまず、主の真実をほめたたえることでしょう。主はイスラエルにこのカナン之地を与える、と約束して来られました。アブラハムの時代からそうでした。彼が故郷を出て、カナンの地、シェケムのモレの木の檜の木のところに来た時、主は「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。」と創世記12章7節で言われました。また創世記13章でロトがヨルダンの低地全体を選び取ったため、アブラハムはカナンの地に住みましたが、その時も主は言われました。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。・・立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。」 またアブラハムと契約を結んだ創世記15章18節でも主は「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。」と言われました。その主の約束がこのように実現したのです！北方のレバノンから南のハラク山に至るまで、です。今日の私たちにとって、この一覧表は退屈なりすとに思えるかもしれませんが、イスラエル人にとってはそうでない。ここに記されている一つ一つは興奮を覚えずにいられないリストです。主の御名をほめたたえる賛美歌のようなものです。どの言葉も「主の真実は偉大なるかな！」というメッセージを語っています。そのような主への賛美が炸裂せずにはいないのがこの12章のリストなのです。

この表を見て思われることは、主への感謝や賛美は具体的にささげられるべきである、ということです。私たちはこの章を読んで、「こんなに細かく一つ一つ書く必要はあるのだろうか。主は約束通り、カナンの土地をレバノンからハラク山に至るまで与えて下さったと記せば十分ではないか。」と思うかもしれませんが、しかしこのように一つ一つ主の祝福を数え上げることは、聖書的な信仰のあり方です。たとえば詩篇105篇では、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、出エジプトに関するこのことが一つ一つ振り返られることを通して、主の御名が賛美されています。あるいは詩篇136篇。そこでは一行ごとに主への感謝が述べられ、「その恵みはとこしえまで」というフレーズが繰り返されています。私たちは「その恵みはとこしえまで」と繰り返される言葉にのみ目が行くかもしれませんが、真に大事なものはそれに先立つ一つ一つの文章。一つ一つの主の恵みを数えて感謝する時に、「その恵みはとこしえまで」という賛美の声は益々熱を帯び、喜びに満ちたものになるはずです。前に私が所属していた教会では、年末に「忘年会」ではなく、その年を覚える「覚年会」を行なって、主の恵みを数えようという時を持ちました。一人一人その年の恵みを具体的に述べ合うのです。そうする時にいかに細かいところまで主の導きがあったか、賛美し、感謝すべきことがたくさんあったか、ということに改めて気づかされた、ということがありました。

このヨシュア記12章でもどうでしょうか。まず9節に「エリコの王ひとり。ベテルのそばのアイの王ひとり。」とあります。イスラエルはエリコの町の回りをただ行進しただけで、この城壁の町を打ち破りました。それはただ主の恵みと不思議とによることでした。次のアイについては一旦はアカンの罪のゆえに負けましたが、罪の解決を経て勝利しました。そこにも神の憐れみと恵みがありました。10節からのエルサレム、ヘブロン、ヤルムテ、ラキシユ、エグロン、ゲゼル、デビルといった町々は、10章で見たカナン南部連合軍の町々です。イスラエルはギブオンとの盟約を通して思わぬ戦いに巻き込まれましたが、主はヨシュアの祈りに答えて太陽の輝きをストップさせ、天から雹を降らせる奇跡をもってイスラエルを助けて下さいました。また19節のマドン、ハツォル、シムロン、アクシャクなどは、11章で見た北部連合軍の町々です。彼らは海辺の砂のように多い兵士たちを集め、馬や戦車を

多く持っていましたが、イスラエルはそんな圧倒的な力をもつ敵をも、主の力強い約束の御言葉に信頼して打ち破りました。このように一つ一つ具体的に振り返る時に、主の恵みの数々が心によみがえり、迫って来ます。そしてそれが私たちの信仰を強めてくれるのです。ですから私たちも感謝の祈りをささげる時、このように祈らないようにすべきです。「神様、今日も多くの多くの恵みを感謝します。すべてをありがとうございます。一切を感謝致します。」　そういう祈りをする代わりに、一つ、あるいは二つの具体的な感謝の祈りをする方がはるかに良い。就寝の時も、「今日も一日すべてを守って下さり、ありがとうございます。」と漠然とした祈りをするのではなく、その日を振り返って感謝だったことを具体的に一つ、二つあげて祈る。このような取り組みが、私たちの主への信仰を祝福してくれるのです。

最後にもう一つ、この一覧表から申し上げたいことは、これは過去の主の恵みを記念するだけでなく、将来の最終的な主の勝利を指し示し、それを保証するリストでもあるということです。イスラエルによるカナン人の聖絶は、これまでも触れて来ましたが、カナン人の限度を超えた悪に対する主の正義の現れです。主ははるか昔、アブラハムの時代から、カナンの人々の悪に忍耐して来られました。しかしその咎がついに満ちたために、イスラエルは主のさばきの使いとしてこの地へ送られたのです。その戦いをまとめたこの一覧表から言えることは、悪はいつまでものさばることはできないということです。必ず主は悪の勢力に審判を下し、ご自身の義を確立される。そしてこれはやがての主の最終的な勝利と義の支配のプレビューであり、予告です。ヨハネの黙示録 11 章 15 節：「第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。『この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。』」

ですからこのヨシュア記 12 章は、今日の私たちをも大いに励ますべきものです。私たちが日々様々な戦いの中にあります。色々な問題にぶつかって悪戦苦闘しています。時には敵が栄えるのを見えています。主にまじめに従って戦い、耐え忍ぶ生活をするよりも、楽しく生きているこの世と一緒に過ごした方が幸せのようにも思えます。しかし決してそうではない！いかに今、悪が栄えているように見えても、いつまでもそうではない。理不尽なことが多く、善も悪も大して変わらないように見えても、いつまでもそうなのではない。主は必ず最後に悪をさばかれるのです。そしてご自身に従う者を勝利に導き入れて下さいます。ですから私たちは心定めて主に従って行けば良いのです。確信をもって主の側に付く戦いを進めて行けば良いのです。主はご自身の約束に真実な方であり、このヨシュア記 12 章が指し示す最後の勝利を必ず私たちにもたらして下さいます。

これから聖餐式にあずかります。主は十字架の犠牲をもってサタンに決定的に打ち勝ち、その勝利を復活によって示して下さいました。主はその恵みの力をもって、ご自身の支配を広げ、やがて神の正義が住む最終的な御国を必ず確立されます。私たちはそのやがての究極の勝利が、このヨシュア記 12 章に前って示されていることを見て取って、確信を新たにさせられ、それぞれの戦いの場へと遣わされて行きたい。今どのような途中経過の中にあろうと、私たちの戦いは決して空しく終わることがありません。主はご自身の側に付いて戦う者を必ず勝利の栄光へ導き入れて下さいます。そしてその人は今日の章が指し示す真の勝利の賛美歌を、やがての日に必ず主によって歌うことができる光栄にあずかせて頂けるのです。